

編集者のことば

都市研究センターは平成元年より「大都市高齢社会の問題状況と政策課題の総合的研究」をテーマとする4年計画の研究を開始した。本特集はこの研究の第1回目の中間報告である。

今日の社会変動は、高齢化、国際化、情報化を特質とするが、そのなかでも、高齢化は、人口構成の変化の急速な進行とともに、さまざまな重大な社会問題が発生し、さらに拡大すると予想される社会変動であり、これに適切に対応することは、今日の緊急の課題となっている。特に、大都市は、従来は青年・壮年を中心とする生産活動本位の「青年の街」であったが、現在は、高齢者の比率が急速に大きくなり、若年層の比率を上回る勢いの「高齢都市」に変貌しつつある。これにともなって、大都市は、この高齢化に対応できるハードの面での都市構造、ソフトな面での社会システムの再編成を迫られ、いわば新しい大都市の構築を行わなければならなくなっている。

高齢社会の問題は、高齢者だけの問題ではなく、同時に、高齢社会を担う世代の問題でもある。また、それは、高齢者の年金や医療、扶養や介護の経済的・福祉的な問題だけではなく、高齢者の生きがいや「生き方」、高齢者の社会参加や高齢者文化の創造の問題でもある。さらに、それは、高齢者の福祉施設や病院の問題だけではなく、高齢者の居住環境、道路・交通施設、都市環境などの問題でもある。これらのハード、ソフトの諸問題を、相互に関連づけながら一体的・総合的に調査・研究することが、今日何よりも要請されている。都市研究センターは、都市を学際的に研究する機関であり、かかる要請に少しでも応えるべく、高齢社会の問題に取り組んだのである。

この大都市高齢社会の総合的研究は、①高齢者の居住環境問題（安全班）、②高齢者の地域生活におけるサービス供給の実態把握と総合化方策に関する研究（サービス班）、③高齢者の文化創造を促す生活スタイルと都市基盤整備に関する研究（文化班）、④高齢者および高齢社会に関する基礎的な各種情報のデータベースの作成（データベース班）の4つの研究領域ごとに研究班を編成して進められた。研究を進めるにあたっては、都市研究センターの学際的な性格を十分に生かすため、各研究班は、各専門分野の研究者が揃うように編成され、また、相互の研究の関連を重視して、各研究班が一堂に会する合同研究会が定期的に行われた。本報告も、この4つの領域を考慮して、編集されている。

調査・研究には、各方面の数々の御協力を頂いた。末尾ながら、ここに改めて感謝の言葉を申し上げたい。調査・研究は、現在も進行中であり、本報告の続編も予定しているが、全体の研究成果は、いずれ、都市研究センターの「都市研究叢書」として世に問うつもりである。今後とも、各方面の御協力をお願いするとともに、さらに研究を深めて行くための、忌憚のない御批判を頂ければ幸いである。

1990年3月

高橋勇悦